

運動発達支援スタジオ

UNIMO

アスリード/東京都豊島区

鈴木貴仁 代表 (36)



●プロフィール (すずき・たかひと)

1981年12月5日生まれ。静岡県出身。信州大学を中退し、(株)フランチャイズ・タイムズ・ジャパン入社。飲食業・サービス業を中心としたFCブランドの加盟店開発、FC本部支援業務に従事。その後、イー・ライフ・グループ(株)に入社。同社主力事業である介護事業の創生期から全国展開の経験を経て、グループ事業として障害福祉事業を立ち上げ、(株)アスリード代表取締役役に就任。

障害児の放課後等デイサービス  
専門の療養プログラムで差別化

アスリード(東京都豊島区)は放課後等デイサービス「運動発達支援スタジオUNIMO(ユニモ)」を展開している。放課後等デイサービスとは、障害のある子どもが学校の後に、生活能力の向上や社会参加への促進を目指して必要な訓練を受けるといったもの。同社では、昨年2月に1号教室を東京都文京区にオープンさせた。

運動療育プログラムで差別化

18歳未満の障害児の支援が児童福祉法の管轄となった2012年以降、「放課後等デイサービス」の言葉も生まれ、民間からの参入も増加した。かつては中重度の障害を持つ子どもの終業後の単なる「お預か

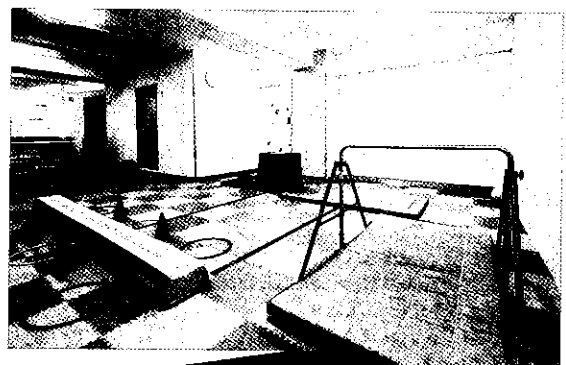
運動をさせる場ではありません」と鈴木貴仁代表は語る。「発達障害の子は情報を処理する能力がうまく発達していません。運動により感覚刺激を与えて、情報を整理できるようにするのが目的。生活技術の向上との二本柱のプログラムを用意しています」

顧問理学療法士

と作業療法士が開発した運動療育と生活プログラムで、他社と一線を画す。法制上、子ども10人に対して児童発達支援管理責任者1名と指導員2名が必要だが、UNIMOはスタッフ4名体制だ。要資格者の人材確保が難しい業界にあつて、確固としたコンセプトとプログラムにより、必要な人材が確保できている。

2020年には50教室を展開

UNIMOはライセンス契約で全国の教室を募集している。開業時にライセンス契約金200万円、開業準備費50万円、研修50万円などで、インシャルコストは1000万円。駅前や生活動線のない立地で、内装費・備品等に700万円ほどが必要



(写真上)  
簡単な運動器具のある店内  
(写真下)  
教室外観



だ(別途運転資金として1000万円程度が必要)。月10万円のライセンス料が2年間発生する。収益は国からの報酬が大半で、年商3000万円ほど。

「発達障害児の親御さんは積極的に情報収集されるので、口コミとウェブで集客できます。オープン前から定員に達することも。引越しいなどの理由がなければ辞める場合も少ないので、長期継続利用が見込めます」と鈴木代表は話す。

現在、直営4教室、ライセンス契約で3教室が開業している。2020年までに直営15、ライセンス契約で35教室での展開を目標としている。